

クスダ・ワインズ

Winery

19

Kusuda Wines

夢を託す
場所として
マーティンボロを
選んだ
その理由



「今日は羊が草を食んでいる斜面も、将来は自分が銘醸畑に変えることが出来るかも知れない。ブルゴーニュと並び称されるような新たなピノ・ノワールのスタイルを確立できるかもしれない。だとしたら、これほどエキサイティングなことは無いよね」。

最高のピノ・ノワールを造りたい一心でエリートサラリーマンの道を経て、ニュージーランドに渡った楠田浩之氏。本紙連載のNZ通信でもお馴染みの楠田氏の現在の拠点がここワイラパだ。

そんな楠田氏にワイラパ、とくにマーティンボロの魅力を語って頂くと……「まずは強風のせいで収穫量が自然に低くなる点。そして、皮が厚くなるからピノ・ノワールに限らずすべての品種に共通して凝縮感が得られること」。

ワイン造りの場としてヨーロッパを選ばなかったのは、「程度の差こそあれワインの『枠組み』がほぼ完成されているから。絵を描くことに例

えると、ヨーロッパは使用するキャンパスの材質や大きさ、油彩なのか水彩なのか、さらには描く題材まで、すでにだいたい決まっている。でもニュージーランドでは、自分の描きたいものに合わせてキャンパスの大きさから使う道具から題材まで、好みに選ぶことができるんだよ」。

それに、と彼は言葉が続ける、「ここ20年余りでこれだけ素晴らしいワインがあちこちで誕生してきているんだもの、その将来性と可能性の高さには人生を賭ける価値があると思ったんだ」。今年、マーティンボロ・テラスに畑を購入。夢と可能性への本格的な挑戦はこれからだ。